

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況						
令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。 鳥羽商船自己点検評価 S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし						
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに係るものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価	
1. 1 教育に関する事項						
(1) 入学者の確保						
①-1	(1) 入学者の確保 ①-1 ・入学対象者および保護者等の関係者が本校の存在を知り、学生生活をイメージできる情報発信に注力する。 ・学校案内パンフレットを更新し、学生の生活がイメージできる内容を掲載する。 ・ホームページは、入学対象者向けのコンテンツを明確に提示するとともに、学生の活躍や学校のトピックスを高頻度で更新する。 ・ホームページに掲載したトピックス等は、各種SNSと連動した自動配信を実施し、能動的な情報発信に取り組む。 ・公式SNSについて、X、Instagram、Facebook、YouTubeなど複数のチャンネルを用意し、さまざまな利用者層の趣味嗜好に合わせた配信を実施する。 ・中学校における進路説明会に積極的に参加し、本校の認知度、学習内容の理解に努める。 ・他高専との合同説明会にも参加し、志願者増加に努める。 ・中学校の巡回PRについて、三重県内はもちろん、県外についても積極的に実施する。教員の担当校を明確にし、春秋の2回訪問する。 ・近隣の教育委員会と連携し、STEAM教育を出前授業・公開講座として実践することで、高専での高度な学習に興味を持つ生徒を増やす。 ・公開講座や出前授業について、時代に合わせた内容を取り入れ、小中学生はもちろん、一般向けの講座を実施することで、本校への理解を向上させる。	広報部会 教務	総務 教務 企画	(1) 入学者の確保 ①-1 ・4月以降広報体制を見直し、ホームページ、公式SNS、メディア掲載、パンフレット等で本校の情報発信に積極的に取り組んだ。 ・学校案内パンフレットを更新し、学生生活がイメージできる内容を掲載した。 ・ホームページは、入学対象者向けのコンテンツを明確に提示するため、レイアウトの変更を実施した。 ・ホームページに掲載したトピックス等は、各種SNSと連動した配信を実施し、SNSからホームページへの誘導となるように発信した。 ・入学対象者および保護者等の関係者が本校の存在を知り、学生生活をイメージできるよう、積極的に学生の課外活動の様子や授業風景をXへ投稿した。 ・オープンキャンパス、海学祭等のイベントにてXのフォローを呼びかけ、入学対象者および保護者等の関係者のフォロワーを増やし、より多くの人に情報が届くよう努めた。 ・ホームページで学生の活躍や学校のトピックスを高頻度で更新。3月末時点で学生の活躍を26件、学校のトピックスを70件公開した。 ・公式SNSとして、X投稿306件、Instagram投稿170件を発信済み。 ・中学校進路説明会には、前期16校訪問し、後期は7校訪問した。 ・国公立高専合同説明会（高専フェス）、東京会場：参加者数257組603名、大阪会場：参加者347組847名 ・国立高専合同説明会（KOSEN FAIR）9/1開催 参加者数31名 9/8開催 参加者数23名 ・近大高専主催合同説明会に参加 7月開催 参加者21組、9月開催 参加者13組 ・5商船系高専合同進学ガイダンス 神戸会場 50名 横浜会場 59名 ・中学校巡回PRは、春に142校訪問、秋には152校に訪問した。 ・鳥羽市、伊勢市の教育委員会と連携し、プログラミングに関する出前授業を7校（計24回）実施。 ・公開講座、出前授業について、小中学生向けには、サイテクランド2024として、12の公開講座を実施、延べ197人の参加者を数えた。また、一般向け公開講座は1件実施し、参加者は1名だった。出前授業は、11校（計30回）実施した。 ・3/29（土）に近隣住民向け新鳥羽丸一般公開イベントを行い、122名の参加者があった。	A	◎
①-2	①-2 ・入学説明会、進路相談会を複数回実施し、希望者や保護者への情報提供、不安の解消に努める。 ・オープンキャンパス及び授業見学会等について、多くの参加者が参加できるように実施方法、日程について見直しを行う。 ・女子中学生向けの説明会や相談会を実施する。	教務	教務	①-2 ・今年度は、高度情報工学コースが新設されることから、従来の入試広報イベントに加えてHP内に特設のサイトを設置し、実施した説明会について動画とスライドを公開した。各種入試イベントの参加者は以下のとおり。 ・Web学校説明会（7/5、12、19）参加者84組 ・オープンキャンパス（8/9、10、10/12）参加者343組 うちS科130組、J科213組 ・予備校・学習塾向け説明会（10/17）参加者25校 ・授業見学ツアー（11/4）参加者 51組、106名 ・中学校教員対象説明会（9/27、11/15）9月参加者15名、11月参加者30名 ・国公立高専合同説明会（高専フェス）、東京会場：参加者数257組603名、大阪会場：参加者347組847名 ・国立高専合同説明会（KOSEN FAIR）9/1開催 参加者数31名 9/8開催 参加者数23名 ・近大高専主催合同説明会に参加 7月開催 参加者21組、9月開催 参加者13組 ・5商船系高専合同進学ガイダンス 神戸会場 50名 横浜会場 59名 ・受験相談会（12/1）参加者 S科22組、J科26組 ・入試問題解説（12/1日）参加者 60名 ・オープンキャンパスは多くの参加者が参加できるよう、計3日間実施し、いづれも夏休み期間、土日祝などの参加しやすい日程とした。昨年度に引き続き、学食体験と寮見学を実施し学校生活の雰囲気味わっていただけるよう実施した。 ・10月実施のオープンキャンパスは、午後の部を女子学生特集とし、質問をしやすい環境を作り実施した。 ・入学前説明会を3月7日、3月21日に実施。	S	◎
①-3	①-3 ・近隣の教育委員会と連携し、プログラミングをはじめとするSTEAM教育の支援を実施する。	教務	企画 教務担当補佐	①-3 ・以前から鳥羽市教育委員会と連携し、鳥羽市内小中学校への出前授業を積極的に実施していた。今年度は新たに伊勢市教育委員会とも連携し、伊勢市内小中学校への出前授業についても積極的に実施している。鳥羽市教育委員会、伊勢市教育委員会と連携したプログラミング講座を7回実施済みで、地域の理工系人材の発掘を推進した。 ・U16プログラミングコンテスト三重大会を実施し、14名の参加者があった。	S	◎
②-1	②-1 ・学校案内パンフレットに女子学生の写真やコメントを多く掲載し、入学後の学生生活のイメージを提示する。 ・オープンキャンパスで、女子中学生を対象としたコースを設け、女子学生・教員と接する機会を提供する。 ・高専女子フォーラム、GCONなど外部で実施される研究紹介イベントで成果報告を行う。	教務	教務	②-1 ・在籍学生の男女比はおおよそ男：女=5：1であるが、学校案内、パンフレット等に掲載する学生の写真・コメントの男女比はおおよそ男：女=1：1になるようにした。 ・オープンキャンパスは、10月12日の午後の部に女子中学生グループを作り、本校での女子学生の活躍をテーマに、授業での様子や課外活動、進路などについて紹介し、女子学生や女性教員と気軽に話せる機会を設けた。10月12日（午後の部）女子生徒の参加者数：S科25組中5組、J科27組中14組 ・GCONに3チームエントリーし、ファイナリストとして1チームが本選に出場した。	A	◎
②-2	②-2 ・学校ホームページの自動翻訳ツールを導入済みであるため、継続して使用する。 ・KOSEN Global Campを本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール等の学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施する。 ・海外の船員養成や工業系の学校との連携を模索し、積極的に見学を受け入れ、問い合わせにも丁寧に対応する。 ・本校からの学生派遣を実施しているMELキャンプ等や、本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意し、プログラムの単位認定や単位互換についても検討する。 ・令和7年2月または3月に、シンガポール、アメリカ、ニュージーランド等の高等教育機関から学生を招いてKOSEN Global Campを開催する。 ・新たな協定先となる海外の教育機関の選定や交渉を実施し、学術交流協定の締結を進める。 ・外国人留学生に対し、日本語教育に加えて、鈴鹿高専と合同での実地見学旅行や日本文化を体験するイベント、他高専の留学生との交流会の実施を検討する。	広報部会	総務	②-2 ・学校ホームページの自動翻訳ツールについて、引き続き使用している。 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施した。 ・MELキャンプを令和7年3月18日から3月29日にかけて開催した。 ・KOSEN Global Campで交流するベトナムの商工短期大学（College of Industry and Trade、COIT）へ本校教員が訪問し、グローバルエンジニア育成事業やKOSEN Global Camp等における国際交流について協議を行い、2月8日に学術交流協定（MOU）を締結した。 ・来年度タイ高専から留学生を受け入れるにあたり、早期に国際交流協定（MOA）が締結できるよう準備を進めた。 ・今年度は鈴鹿高専が主催となり、12月21日に鈴鹿サーキットで留学生実地見学旅行を行った。 ・来年度情報機械システム工学科2年生を海外に派遣することを計画している。それに伴い、今年度3月10日から3月14日にかけて、シンガポール研修旅行を実施し、学生4名で受入先機関を訪問した。	S	◎

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
 鳥羽商船自己点検評価
 S：計画をはるかに上回る実績を残した
 A：達成度 100%以上
 B：達成度 70%～100%未満
 C：達成度 70%未満
 -：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各系の達成状 況自己評価
③-1 ・特別推薦、一般推薦、体験学習選抜、学力選抜と多様な選抜方法を継続して実施し、本校に合う適性を持った学生の確保に努める。 ・新コースの開設に伴い、卓越した人材を確保するために高度情報エンジニア特別選抜を実施する。 ・最寄り地受験制度を活用し、広域からの学生募集を行う。 ・Web出願システムを活用し、入試業務のミス軽減を推進する。	教務	教務担当補佐	③-1 ・令和7年度入学者選抜においても、体験学習選抜（1月11日）、特別推薦選抜及び一般推薦選抜（1月12日）、学力検査選抜（2月9日）を実施した。 ・令和7年度から情報機械システム工学科に新コースの高度情報工学コースが設立される。それに伴い新たな入学者選抜方法である高度情報エンジニア育成特別選抜を10月26日、27日に実施した。 ・最寄り地受験制度を募集要項やHP等で周知し受験生の利便性向上を図っている。 ・Web出願システムについては、引き続き本科の入試選抜にて活用し、教職員の業務負担軽減につなげた。 ・令和7年度に設立の情報機械システム工学科高度情報工学コース、及びそれに伴う高度情報エンジニア育成特別選抜の中学校教員向け説明会を5月27日、30日、31日に実施した。	S	◎
③-2 ・障害がある受験生に対する配慮を実施し、これまでの対応事例について本部と共有する。	教務	教務	③-2 ・障害のある受験生に対して配慮を行い、対応事例について本部と共有する。なお、今回の入試では推薦面接試験において、吃音の傾向がある受験生の相談を受け、筆談可能な体制を整えた。	A	◎

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況					
令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。 鳥羽商船自己点検評価 S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし					
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに係るものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価
(2) 教育課程の編成等					
①-1	校長	企画・地域連携	①-1 ・「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」の高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援に基づき、高度情報専門人材として学科を拡充し、情報系コースの新設に向けて計画を遂行する。 ・商船系5高専が協力して次世代海洋人材の育成と質の向上に努め、練習船を利活用や他機関との連携の充実に努めた。 ・練習船「鳥羽丸」の代船（商船高専系三番船）および練習船「若潮丸」の代船建造について、商船系5高専が連携して取り組む。 ・情報機械システム工学科創設から5年が経過して教育課程変更の学年進行が完成したことを踏まえ、専攻科の海事システム学、生産システム工学専攻の教育課程の見直しを継続して検討し、本科の学科拡充・情報系コースの新設に同期したシームレスな教育課程を完成させる。 ・地域の行政、高等教育機関や海事・海洋ならびに情報機械システムなどの産業界との連携を深化させ、課題解決学習はじめ教育の諸活動で学生が活躍できる場を提供するとともに、本科・専攻科の留学生を含めた国際交流の機会を充実させ、国内外で活躍できる人材育成に資する。 ・GEAR5.0事業の農林水産分野で中核拠点校として採択された課題「『とる』から『つくる』へ農林水産のDX推進プロジェクト」の実施を通じて、全校的なPBLを展開・充実する。これにより、GEAR5.0の函館、一関、阿南、和歌山はじめとした各高専との社会実装、人材育成について教育連携を深化させる。	S	◎
①-1-2		教務	①-1-2 ・社会のニーズを踏まえた高度な人材育成として、産業界と連携したインターンシップを実施する。 ・地域課題を解決するための共同研究を実施する際に、学生も参画させ人材育成に繋げる。 ・客員教授制度を活用し、民間企業や行政機関の研究者等を実務家教員として登用する。	A	◎
①-2		教務	①-2 ・豊橋技術科学大学や長岡技術科学大学出身の教員を接点として、試行的に連携教育を実施しつつ、連携教育プログラムの実現を検討する。 ・三重大学工学部・鳥羽商船高等専門学校連携教育プログラム生対象特別選抜を実施し、本校専攻科生が三重大学工学部3年次編入学することと連動した連携教育プログラムを実施する。 ・広島大学と商船系高等専門学校との交流と連携・協力の推進に関する包括協定に基づき、共同研究の実施や専攻科学生の大学院進学に向けた協議を実施する。	A	◎
②-1	教務 グローバル 教育推進室	学生生活	②-1 ・本校からの学生派遣を実施しているMELキャンプ等や、本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意し、プログラムの単位認定や単位互換についても検討する。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。 ・海外留学を経験した学生の報告発表を積極的に学内で促し、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。 ・新たな協定先となる海外の教育機関の選定や交渉を実施し、学術交流協定の締結を進める。【再掲】 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進する。	S	◎
②-2	教務 グローバル 教育推進室	学生生活	②-2 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進する。【再掲】 ・令和7年2月または3月に、シンガポール、アメリカ、ニュージーランド等の高等教育機関から学生を招いてKOSEN Global Campを開催する。【再掲】 ・本校からの学生派遣を実施しているMELキャンプ等や、本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意し、プログラムの単位認定や単位互換についても検討する。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。【再掲】 ・海外留学を経験した学生の報告発表を積極的に学内で促し、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。【再掲】 ・新たな協定先となる海外の教育機関の選定や交渉を実施し、学術交流協定の締結を進める。【再	S	◎

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
鳥羽商船自己点検評価
S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度 100%以上
B：達成度 70%～100%未満
C：達成度 70%未満
-：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価
③-1 ・「全国高等専門学校ロボットコンテスト」や「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」など、学生のコンテスト活動に積極的な参加を促す。 ・これらを通じて、技術や知識の向上と緊張感のある成果発表の体験につなげるため、活動資金等の支援を行う。 ・「全国高等専門学校体育大会」、「インターハイ」等の活動についても、積極的な参加を促し、設備の更新等、学生の意欲向上を図り、生涯スポーツにつながるような支援を行う。	学生	学生生活	③-1 ・アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024 東海北陸大会において「竹跳物語」が特別賞(東京エレクトロン株)を受賞した。 ・第35回全国高等専門学校プログラミングコンテストにおいて、課題部門において「Triplean-インバウンド対応・清掃支援システム-」が文部科学大臣賞、最優秀賞、情報処理学会若手奨励賞、電子情報通信学会若手奨励賞を受賞したほか、「TerraMeal」が敢闘賞を受賞した。 ・第3回高専GIRLS SDGs×Technology Contestで「ezaki-lab」がファイナリスト賞を受賞した。 ・第12回高校生ビジネスプラン・グランプリで「その地の魅力に接近！ワンアクションでクルーズ船対応」が高校生ビジネスプラン・ベスト100に選出された。 ・GNSS・QZSSロボットカーコンテストで「シン☆鳥羽丸GO」が優秀賞を受賞した。 ・第13回高校・高専観測機器コンテストで「ももナビ」が代表理事特別賞、「鳥獣害発生予測システム「よりどりお天気」」が観客賞を受賞した。 ・ロボコン、プロコンの活動を支援するため奨学後援会からの支援（寄付金）を受けている。 ・全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に少林寺拳法部が出場した。また、高等専門学校体育大会地区大会に7競技出場し、残念ながら全国大会には届かなかったものの剣道競技男子団体の部において準優勝、同じく男子団体勝ち抜きにおいて優勝を果たした。	S	◎
③-2 ・ボランティアの依頼を受けた場合に、校内の掲示板等にて学生向けの周知を行う。 ・地域と連携して学生主体の地域ボランティア活動を促進する。（近隣自治体の粗大ゴミ収集手伝いなど）	教務 学生 寮務	学生生活	③-2 ・ボランティアの依頼を受けた場合には、学生へ周知を行っている。 ・三重県警サイバー犯罪対策課から本校へ依頼のあった「SNSを利用した投資詐欺」「フィッシングによるとみられるインターネットバンキング不正送金」「サポート詐欺」などの被害防止に関する広報活動ボランティアに学生が参加し地域貢献を果たしている。	A	◎
③-3 ・「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、個別に学生の申請を支援する。 ・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進する。【再掲】 ・令和7年2月または3月に、シンガポール、アメリカ、ニュージーランド等の高等教育機関から学生を招いてKOSEN Global Campを開催する。【再掲】	グローバル 教育推進室	国際交流担当	③-3 ・「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの高専機構主催の説明会は機構本部からのアナウンスを学生に周知した。また、学生の申請書の書き方の指導や面接練習などを行い、書類申請を支援した。令和6年度に「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに採択された学生らが校長への報告会と本校学生、教職員向けの国際交流報告会で発表した。 ・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに全学生が閲覧できるチャンネルでも周知している。また、グローバル教育推進室員にも通知し、学生への情報提供を行っている。 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進した。【（2）教育課程の編成等②-1の再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施した。【（1）入学者の確保②-2の再掲】	A	◎

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。					
鳥羽商船自己点検評価 S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし					
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに係るものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価
(3) 多様かつ優れた教員の確保					
①	① ・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げる。	教員選考	人事労務	(3) 多様かつ優れた教員の確保 ① ・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げて選考を行っている。	A ◎
②-1	②-1 ・クロスアポイントメント制度の活用を検討する。	教員選考	人事労務	②-1 ・大学・高専成長分野転換支援基金等を利用したクロスアポイントメント制度の活用について検討し、相手方企業と協議した。次年度から、クロスアポイントメントではないが高度情報人材育成に向けて企業から定期的な講師派遣を実施する。	A ◎
②-2	②-2 ・民間で活躍する人材の活用による教育内容の高度化の活用を検討する。		人事労務	②-2 ・ビズリーチを用いて求人を実施し、副業先生はもちろん、学校経営BPRアドバイザー、カリキュラムアドバイザー、広報PRアドバイザーなどを雇用、民間で活躍する人材を採用し、教育内容の高度化の活用を行っている。	S ◎
③	③ ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。また、女性研究者支援プログラムなどへ積極的な応募を促すなど、女性教員の働きやすい環境の整		人事労務	③ ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知している。 ・育児休業から復帰した女性教員のライフサイクルに合わせ、早出労働勤務・在宅勤務を適用している。 ・育児中の男性教員に、所定外労働の免除、在宅勤務等の配慮を実施している。	A ◎
④	④ ・外国人教員の積極的な採用について検討する。	教員選考	人事労務	④ ・外国人教員の積極的な採用について継続的に検討している。 採用実績を有している。	A ◎
⑤	⑤ ・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を実施する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても周知する。	教員選考	人事労務	⑤ ・高専間の教員異動希望制度について周知した。高専間異動制度を利用し、本校から他高専へ1名転出することとなった。	S ◎
⑥	⑥ ・法人本部主催の研修に教職員を積極的に参加させる。 ・教育改善に向けた教員FDを実施する。	教務	人事労務 教務	⑥ ・カリキュラムアドバイザーによる授業改善、教員FDの実施(9月2・3日) ・本部主催の新任教員研修(教員1名・職員2名)・中堅教員研修(2名)・新任課長研修(1名)に参加させている。 ・3月11日にBPRアドバイザーによる全教職員向けのワークショップを実施した。	S ◎
⑦	⑦ ・引き続き教員顕彰等への推薦を行う。	校長	人事労務	⑦ ・教員顕彰への推薦を選考して行った。	A ◎

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
 鳥羽商船自己点検評価
 S：計画をはるかに上回る実績を残した
 A：達成度 100%以上
 B：達成度 70%～100%未満
 C：達成度 70%未満
 -：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価
(4) 教育の質の向上及び改善					
①	教務	教務	① ・高専関連系科目として、AI実践ブートキャンプを受講した学生の単位認定を実施した。 ・カリキュラムアドバイザーによる授業改善、教員FDの実施 ・副業先生を採用(9名)し、既存の授業内での実務視点での授業を実施した。 ・情報機械システム工学科の新コース設置及び商船学科のカリキュラム改定に伴い、DP、CP、MCCについて、修正を行なった。 ・WEBシラバスを用いてルーブリックの作成、到達目標に対する学生の到達度を適切に評価している。 ・アクティブラーニング等、学生が能動的に学習するための授業方法について、教員FDにおける各教員の授業ビデオ共有および意見交換により、授業技術の改善に努めている。 ・CBT(12月までに実施)による学習到達度の把握、学習状況調査、授業アンケート(前期実施済み)、4年次および卒業時の満足度調査による教育効果の改善を実施する。 ・教員FDとして、9月2日3日に外部からカリキュラムアドバイザーを招いて、教員を8グループに分けて授業改善、評価方法の共有等を実施。それに向けて学内打ち合わせ、授業ビデオの共有等を実施し、授業改善・適切な評価方法の構築につなげている。 ・商船学科で令和7年度に数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定(応用基礎レベル)に向けて申請をおこなった。	S	◎
②	点検評価	企画・地域連携	② ・年度末に実施の運営諮問会議において、外部委員からの評価を受け、教育の質の向上に努める。 ・教員自己評価実施要項を作成のうえ、自己点検評価を行った。 ・これらの検討結果を統合報告書等の毎年の取り組み状況のデータ、レビューとともに各国立高等専門学校に共有・展開を検討した。 ・KISについて、昨年度受審校から情報共有をしてもらい、受審に向けた準備を開始した。	A	◎
③-1	教務	教務	③-1 ・情報機械システム工学科で1年生から5年までに正規科目として配置したPBLの実事例として、外部コンテストへのエントリーを推奨し、全国高専プロコン課題部門で最優秀賞を受賞するなど成果を上げている。 ・商船学科においても、3月に就航する新鳥羽丸を活用したプロジェクトの検討を開始し、情報機械システム工学科の学生とも連携した取り組みを次年度以降に実施する。 ・鳥羽市教育委員会、伊勢市教育委員会と連携したプログラミング講座を4回実施済みで、地域の理工系人材の発掘を推進している。	S	◎
③-2	研究主事	企画・地域連携	③-2 ・鳥羽商船高専連携協会の会員企業や三重県内の企業と連携した教育コンテンツの開発について検討・実践を行う。 ・インターンシップなどの共同教育について、コロナ禍で浸透したオンライン実施の利点を継承しつつ、対面での実施を推進する。 ・これらの取り組み事例をまとめてテクノセンター報などに掲載し、各国立高専への情報共有を行う。	A	◎
④	教員選考 研究主事	人事労務 企画・地域連携	④ ・高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、共同研究など、国立高等専門学校と技術科学大学との間の連携を推進する。 ・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との間の連携を推進する。 ・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との人事交流について検討した。	A	◎

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
 鳥羽商船自己点検評価
 S：計画をはるかに上回る実績を残した
 A：達成度 100%以上
 B：達成度 70%～100%未満
 C：達成度 70%未満
 -：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各系の達成状 況自己評価
(5) 学生支援・生活支援等					
①	学生	学生生活	① 学生相談は、教職員での対応のほか、精神科医1名（月1回）及びカウンセラー1名（毎週）、スクールソーシャルワーカー1名（隔週）、計3名の専門職が来校し実施している。 ・学生に対して、いじめアンケートを3回（6月、10月、12月）実施し、結果に基づきいじめ防止対策委員会（7/30、10/3、10/7、10/28開催）にて、状況確認を行い随時個別対応を行っている。また、5/10の学生主事講話において学生主事より動画を用いた注意喚起を行った。 ・高専生活に関するアンケートを2回（6月、10月）実施し、要観察学生に対しては、学生相談室長等による面談を実施した。 ・教職員に対し、いじめ問題への対応の研修として、スクールカウンセラーによる講演「いじめ予防と対応のヒント」を対面にて実施した。（9/5） ・学生に対し、スクールカウンセラーによるいじめ防止に関する講演「いじめ防止のために」を録画視聴にて実施した。（10/3） ・学生に対し、スクールソーシャルワーカーによる「自信を持てる環境を作ろう」に関する講演を録画視聴にて実施した。（6/18） ・教職員に対し、スクールソーシャルワーカーによる「スクールソーシャルワーカー（SSW）の役割～様々な課題に対して～」に関する講演を対面にて実施した。（6/27） ・休学している学生にも担任等が連絡を取り、サポートを行っている。	A	◎
②	学生	学生生活	② 新入生入学説明会時に主だった貸与奨学金の案内を行った。 ・ホームページにも主な貸与奨学金情報を掲載し周知した。 ・Teamsの全学生向けチーム内に奨学金情報掲載用のチャンネル設けており、そので募集案内の到着時に速やかに奨学金の募集を案内した。 ・都道府県および市町村独自の奨学金については、該当学生を絞り込み、個別に案内した。	A	◎
③	学生	学生生活	③ (1) 社会人基礎力養成 ・新入生オリエンテーション（コミュニケーション力向上）を実施（4/19） ・リーダートレーニングを遠隔により実施。スクールカウンセラーによる講演会やグループワークを実施（9/28） (2) 就職力養成 ①人材広告企業による遠隔講義 ・工業系3、4年生を対象としたWeb 適性検査と就職活動講座（10/22） ・工業系3、4年生を対象とした面接対策講座（10/29） ②セミナー ・海事・工業系就職支援セミナー（11/8対面形式、140社参加）	A	◎

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況					
令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。 鳥羽商船自己点検評価 S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし					
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに係るものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価
1. 2 社会連携に関する事項					
①	研究主事	企画・地域連携	① ・教員の研究分野や研究成果については、Researchmap、学校としてのシーズ集を作成するなど、最新の情報を提供する。 ・共同研究、受託研究の成果をまとめ、テクノセンター報をホームページに掲載する他、鳥羽商船高専連携協会の会員企業向けへの案内を行う。	A	◎
②	テクノセンター	企画・地域連携	② ・KRA、テクノセンター、鳥羽商船高専連携協会、高専研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受け入れを促進する。 ・(株)百五総研が主となって採択された経済産業省「中堅・中核企業の経営力強化支援事業」の支援機関として参画し、技術マッチングのイベントに参加した。 ・東海農政局三重県拠点と農林水産業・海事産業の持続的な発展、人材の交流・育成等を目的とし、包括連携協定を締結した(9/4)。 ・鳥羽市との包括連携協定のもと、街づくりにかかる学生向けアンケートへの協力を行った。 ・伊勢市との包括連携協定のもと、小中学生向けプログラミング教育の技術支援体制づくりを進めている。伊勢市内小中学校にて、出前授業を7件実施した。 ・連携協会主催のセミナーにて会員企業のニーズ・シーズの講演をおこなった。	S	◎
③-1	(機構本部のみの計画のため、省略)				
③-2	広報部会 紀要部会	企画・地域連携 総務 図書	③-2 ・学校行事、各種イベント開催、コンテスト結果等について積極的にプレスリリースを行う。 ・学校公式Xを主軸として、YouTube、Facebook、Instagramなどの複数のSNSを連動させながら広報活動を行う。 ・一般市民の利用促進のため、ホームページに図書館の利用案内の情報を掲載する。また、SNS等を活用し情報発信を継続する。	S	◎
④	広報部会	企画・地域連携	④ ・以前から鳥羽市教育委員会と連携し、鳥羽市内小中学校への出前授業を積極的に実施していた。今年度は新たに伊勢市教育委員会とも連携し、伊勢市内小中学校への出前授業についても積極的に実施している。 ・12月6日リカレント教育プラットフォームみえ第3回セミナーに校長が講演者として登壇した。	A	◎
1. 3 国際交流等に関する事項					
①-1	グローバル教育推進室	総務担当補佐	①-1 ・従来実施してきた国際交流事業について、関係各機関と検討している。また、機構本部と情報共有しながらニュージーランド、ベトナム、シンガポールなどへの交流拡大に努めた。 ・KOSEN Global Campで交流するベトナムの商工短期大学 (College of Industry and Trade, COIT) へ本校教員が訪問し、グローバルエンジニア育成事業やKOSEN Global Camp等における国際交流について協議を行い、2月8日に学術交流協定(MOU)を締結した。 ・機構本部、国際戦略推進本部・本部員として1名の教員を併任させ、企画・運営、本部との情報共有に努めた。	B	◎
①-2～ ①-7	(機構本部のみの計画のため、省略)				
②	グローバル教育推進室	総務担当補佐	② ・海外留学を経験した学生の発表を、学生だけでなく教職員にも案内し参加を促すことで、学校全体の国際化の重要性の普及に努めた。タイ高専への教員派遣候補者の学内募集や留学生の受け入れ等にも組織的に取り組んだ。	A	◎
③-1	教務 グローバル教育推進室	学生生活	③-1 【(2)教育課程の編成等 ②-1の再掲】 ・MELキャンプを令和7年3月18日から3月29日にかけて開催した。【再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施した。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、外務省海外安全ホームページを確認したうえで安全な地域であることを確認したうえでプログラムを作成している。 ・令和6年3月にMELキャンプに参加した学生たちの報告会を4月26日に行った。今年度入学した留学生の自己紹介や8月から9月にかけて短期海外留学した学生の報告会は11月27日に実施した。 ・KOSEN Global Campで交流するベトナムの商工短期大学 (College of Industry and Trade, COIT) へ本校教員が訪問し、グローバルエンジニア育成事業やKOSEN Global Camp等における国際交流について協議を行い、2月8日に学術交流協定(MOU)を締結した。また、来年度タイ高専から留学生を受け入れるにあたり、早期に国際交流協定(MOA)が締結できるよう準備を進めた。【再掲】 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進した。【再掲】		
③-2	グローバル教育推進室	国際交流担当	③-2 【(2)教育課程の編成等 ②-2の再掲】 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進した。【再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施した。【再掲】 ・MELキャンプを令和7年3月18日から3月29日にかけて開催した。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、外務省海外安全ホームページを確認したうえで安全な地域であることを確認したうえでプログラムを作成している。【再掲】 ・KOSEN Global Campで交流するベトナムの商工短期大学 (College of Industry and Trade, COIT) へ本校教員が訪問し、グローバルエンジニア育成事業やKOSEN Global Camp等における国際交流について協議を行い、2月8日に学術交流協定(MOU)を締結した。また、来年度タイ高専から留学生を受け入れるにあたり、早期に国際交流協定(MOA)が締結できるよう準備を進めた【再掲】		

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。
 鳥羽商船自己点検評価
 S：計画をはるかに上回る実績を残した
 A：達成度 100%以上
 B：達成度 70%～100%未満
 C：達成度 70%未満
 -：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに係るものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価
③-3 ・「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、個別に学生の申請を支援する。【再掲】 ・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。【再掲】 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進する。【再掲】 ・令和7年2月または3月に、シンガポール、アメリカ、ニュージーランド等の高等教育機関から学生を招いてKOSEN Global Campを開催する。【再掲】 ・本校からの学生派遣を実施しているMELキャンプ等や、本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意し、プログラムの単位認定や単位互換についても検討する。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。【再掲】 ・海外留学を経験した学生の報告発表を積極的に学内で促し、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。【再掲】 ・新たな協定先となる海外の教育機関の選定や交渉を実施し、学術交流協定の締結を進める。【再掲】	グローバル教育推進室	国際交流担当	③-3 【(2)教育課程の編成等 ②-2と③-3の再掲】 ・「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの高専機構主催の説明会は機構本部からのアナウンスを学生に周知した。また、学生の申請書の書き方の指導や面接練習などを行い、書類申請を支援した。令和6年度に「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに採択された学生らが校長への報告会と本校学生、教職員向けの国際交流報告会で発表した。【再掲】 ・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに全学生が閲覧できるチャンネルでも周知している。また、グローバル教育推進室員にも通知し、学生への情報提供を行った。【再掲】 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの開催通知を学内に展開し、学生の参加を促進した。【再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施した。【再掲】 ・MELキャンプを令和7年3月18日から3月29日にかけて開催した。【再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、外務省海外安全ホームページを確認したうえで安全な地域であることを確認したうえでプログラムを作成している。【再掲】 ・KOSEN Global Campで交流するベトナムの商工短期大学 (College of Industry and Trade, COIT) へ本校教員が訪問し、グローバルエンジニア育成事業やKOSEN Global Camp等における国際交流について協議を行い、2月8日に学術交流協定(MOU)を締結した。また、来年度タイ高専から留学生を受け入れるにあたり、早期に国際交流協定(MOA)が締結できるよう準備を進めた【再掲】		
④ ・学校ホームページの自動翻訳ツールを導入済みであるため継続して使用する。【再掲】 ・令和7年2月または3月に、シンガポール、アメリカ、ニュージーランド等の高等教育機関から学生を招いてKOSEN Global Campを開催する。【再掲】 ・日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。 ・外国人留学生に対し、日本語教育に加えて、鈴鹿高専と合同での実地見学旅行や日本文化を体験するイベント、他高専の留学生との交流会の実施	広報部会 寮務	総務 国際交流担当	④ ・学校ホームページの自動翻訳ツールを引き続き使用し、英語での閲覧を可能にしている。【(1)入学者の確保②-2の再掲】 ・KOSEN Global Campを2月8日から14日にかけて本校主催で実施し、ベトナム、シンガポール、アメリカ合衆国、ニュージーランドの学生を招聘し、本校学生の国際力強化を実施した。【(1)入学者の確保②-2の再掲】 ・日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。 ・今年度は鈴鹿高専が主催となり、12月21日に鈴鹿サーキットで留学生実地見学旅行を行った。【(1)入学者の確保②-2の再掲】	S	◎
⑤ ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。【再掲】	寮務 教務	国際交流担当 教務	⑤ 【(2)教育課程の編成等 ②-2の再掲】 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、外務省海外安全ホームページを確認したうえで安全な地域であることを確認したうえでプログラムを作成している。【再掲】		

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。					
鳥羽商船自己点検評価 S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし					
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価
2 業務運営の効率化に関する事項					
2. 1 一般管理費等の効率化					
2. 1 一般管理費等の効率化 ・事務の効率化及び管理経費の削減を推進する。	事務部	総務課長 学生課長 財務担当補佐	2. 1 ・学生保護者宛文書の郵送をポータルサイトやメール等による通知に移行することにより、手続きにかかる労力削減を図り、かつ通信運搬費の削減を行った。 ・身上調書の電子化アプリを学内で開発し、これまでの紙管理からの脱却を図っている。R7より本格運用の予定である。 ・総務課の出退勤等勤怠時間管理を紙媒体による管理からデータ化することにより、全体の把握や時間外労働時間管理が大幅に改善され、業務効率化が図られた。 現在は学生課にも試行し、年度内には事務部全体で実施する予定。・書類の決裁者について順次見直しを行い、決裁までの時間短縮と決裁者の負担軽減を行っている。 ・担当する委員会等の資料の電子化を順次進めており、業務の効率化と用紙の削減を行っている。 ・インターンシップ業務について、電子フォームを導入し、学生への情報共有も自動的に行えるようにすることで、学生サービス向上と事務作業の効率化を行った。R7年度より本格運用の予定である。 ・課外活動の鍵の貸出について、貸出状況を一目でわかるボードを用意し、学生サービス向上と事務作業の効率化を行った。 ・統一書式でマニュアルのフォーマットを作成し、事務部においてこれを使用することとした。これにより、各自の業務内容と遂行スケジュールを各課内で共有でき、適切な業務引継ぎと協力体制を浸透させることができるようになった。 ・2フロアに分かれていた学生課を1フロア化した。これにより、課内の意思疎通を迅速化し、課長のマネジメントを容易にした。	S	◎
2. 2 一般管理費等の効率化 (機構本部のみの計画のため、省略)					
2. 3 契約の適正化					
・引き続き真にやむを得ない場合を除き、一般競争入札等による契約の実施を徹底する。 ・他高専とのさらなる共同調達を検討する。また、物品の低廉な調達を目指し、近隣高専、大学との連携の在り方を探る。 ・入札結果等、公開可能な契約情報をホームページ上に公開する。		調達	・真にやむを得ない場合を除き一般競争入札を行っている。 ・他高専とのさらなる共同調達を検討を行っている。公用車の燃料について、鈴鹿高専と共同で契約事務を行っている。また、物品の低廉な調達を目指し、その他契約についても、近隣高専と情報共有を行っている。 入札結果等、公開可能な契約情報をホームページで速やかに公開している。	A	◎
2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化					
・3年前から構築している学生ポータルシステムの機能を強化し、ポータルサイトの電子化、授業変更、出席状況確認・警告、成績閲覧など紙媒体を利用しないシステムを浸透させる。 ・成績管理、出席管理、アンケートなどセキュアな環境下で電子化を進める。	教務主事	総務 教務	・学生ポータルシステムについては担当者として月2回程度定期的な打合せを行い、機能追加、改修作業を実施している。 ・成績管理、出席管理について、学生ポータルシステムと連携し、運用を進めている。 ・学生の身上調書の電子化に取り組み、後期に学生によるデータ入力を実施し、本格運用を開始した。	S	◎
3 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画					
3. 1 一般管理費等の効率化 (機構本部のみの計画のため、省略)					
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加					
・鳥羽商船高専連携協会の会員企業と積極的に交流を行い、共同研究・受託研究を推進する。 ・外部資金の獲得については、研究助成に対する応募を積極的に行うために、テクノセンターの研究支援部門が公募情報の案内や申請書の執筆支援を行う。 ・同窓会とも連携し、創基150周年の記念事業に向けた基金の設置を行い、寄附活動を推進し、これらの募集には寄付者にとって利便性の高い決済手段を導入し、ホームページ等で適切な案内を行う。 ・外部資金や寄附金による経過や成果について、テクノセンター報にまとめホームページに掲載する他、寄附者への案内を行う。	研究主事	企画・地域連携	・科学研究費については、全教員・技術職員の申請を推進し、校内査読を実施し申請率100%となった。 ・各種公募情報に基づき、外部資金への応募も推進した結果、NICT、F-REIなど多くの受託研究・共同研究が受託できてきた。(13件、14,876千円) ・創基150周年の記念事業に関する委員会を組織し、基金を立ち上げ、寄附活動を推進するため、同窓会や連携協会の会員向けに案内を行った。 ・外部資金や寄附金による経過や成果についてテクノセンター報にまとめホームページに掲載する他、寄附者への案内を行った。	A	◎
4 短期借入金の限度額 (機構本部のみの計画のため、省略)					
5 不要財産の処分に関する計画 (機構本部のみの計画のため、省略)					
6 剰余金の使途 (機構本部のみの計画のため、省略)					

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。					
鳥羽商船自己点検評価 S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし					
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに関係するものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価
7 その他主務省令で定める業務運営に関する事項					
7. 1 施設及び設備に関する計画					
①	① ・日本人学生の国際理解向上を図るため、ダイバーシティにも配慮した日本人学生と留学生が共に住まう多文化交流生活寮の整備のため、学内で協議を重ね、実現に向け事前準備に取り組んでいく。 また、昨年度に引き続いて本校トイレ整備計画に基づき、既存学校施設再生整備、安全で快適な教育環境整備、長寿命化やコスト平準化の検討	校長 施設環境整備	施設	① ・混在型学生寮については、昨年度の概算要求資料を見直し、より精査した内容での要求を行った。 ・トイレ整備について、トイレのつまりや不具合が発生している箇所を小規模修繕工事にて対応できるよう取り組んだ。	A ◎
②	② ・学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配布するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	安全衛生	人事労務 教務	② ・学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配布するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施した。 ・「実験実習安全必携」を学生に周知し、安全管理を促した。	A ◎
③	③ ・令和7年度から開設予定である、高度情報工学コース入学生を受け入れるための新校舎建設に係る具体的な検討に入り、それに伴う既存校舎の改修計画とともに、次世代の情報教育を提供できるキャンパス環境を整備する。	施設環境整備	施設	③ ・新校舎建設に係る基本計画・検討を進め、基本設計の入札を行った。また、既存校舎の教室改修について、設計事務所との協議を進めている。	S ◎
7. 2 人事に関する計画					
(1) 方針					
①	課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を促進する。		人事労務 学生生活	引き続きバスケットボール部、水泳部、バドミントン部、卓球部、柔道部の外部指導員を雇用した。寮の当直者を雇用した。	A ◎
④-1	④-1 ・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げる。 【再掲】		人事労務	④-1 【(3)多様かつ優れた教員の確保 ①の再掲】 ・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げて選考を行っている。【再掲】	
④-2	④-2 ・クロスアポイントメント制度の活用を検討する。 【再掲】		人事労務	④-2 【(3)多様かつ優れた教員の確保 ②-1の再掲】 ・大学・高専成長分野転換支援基金等を利用したクロスアポイントメント制度の活用について検討し、相手方企業と協議した。次年度から、クロスアポイントメントではないが高度情報人材育成に向けて企業から定期的な講師派遣を実施する。【再掲】	
④-3	④-3 ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 また、女性研究者支援プログラムなどへ積極的な応募を促すなど、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。 【再掲】		人事労務	④-3 【(3)多様かつ優れた教員の確保 ③の再掲】 ・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知している。【再掲】 ・育児休業から復帰した女性教員のライフサイクルに合わせ、早出労働勤務・在宅勤務を適用している。【再掲】 ・育児中の男性教員に、所定外労働の免除、在宅勤務等の配慮を実施している。【再掲】	
④-4	④-4 ・外国人教員の積極的な採用について検討する。 【再掲】		人事労務	④-4 【(3)多様かつ優れた教員の確保 ④の再掲】 ・外国人教員の積極的な採用について継続的に検討している。 採用実績を有している。【再掲】	
④-5	④-5 ・ダイバーシティ推進室を中心に、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発のため、関連情報を教職員へ提供し、外部が主催する研修等への参加を促す。また、学生に対しても様々な意識啓発を行い、関連する各種イベントへの参加を促す。	ダイバーシティ推進室	総務	④-5 ・関連情報については、機構本部ダイバーシティ推進室及び外部団体からの案内を学内向けに周知し、参加を促している。今後の生活環境の改善を検討するために、女子学生向けに学生の生活環境に関するアンケートを2月5日に実施した。	A ◎
⑤	⑤ 前年度に三重大と締結した「事務職員の人事交流に関する覚書」に基づき、三重大と本校の相互で人事交流をし、個々の能力及び資質の向上を図り、組織の活性化及び人材育成に繋げる。 また、昨年度に引き続き、教職員研修を実施し、個々のスキルアップや気づきを促すと共に、研修の受講が、対人関係の向上、ワークライフバランス促進、ストレス耐性獲得及びハラスメント防止等に繋がるようにする。		人事労務	⑤ ・昨年度に締結した本校と三重大の相互人事交流制度を利用し、今年度、1名の職員を三重大へ出向させた。当該出向者は教職員・学生規模の大きな大学で貴重な経験を積んでいる。 ・今年度の教職員研修は、オンライン動画視聴サービスを提供する会社と契約して実施した。受講者は、ビジネススキル、思考術、マネジメント術、コミュニケーションスキル、PCスキル、語学、哲学、ヘルスケアなどあらゆる分野を学習した。受講期間は8月～1月で、約80名の教職員が仕事上のスキルアップやワークライフバランス等における気づきを得た。なお、受講後のアンケートでは大いに有益であったとの意見が大半を占めた。	S ◎
(2) 人員に関する指標（機構本部のみの計画のため、省略）					
	(2) ビズリーチと国立高専機構の連携制度を活用し、事務部門において学校経営BPRアドバイザーのコンサルティングを受け、従来の仕事を根本的に見直しICTも利用しつつ改善に取り組み、これらが最適な人員配置にも役立てられるようにする。		人事労務	(2) ・ビズリーチと機構本部が提携している民間人材活用制度を利用して、昨年度に引き続き、学校経営BPR（ビジネス・プロセス・リエンジニアリング）アドバイザーとして業務を依頼し、事務部の業務改善による残業時間削減等に関して助言・指導を受けた。アドバイザーの主な活動内容は、部課長への助言・指導（オンライン又は対面）、全事務職員（パートタイム職員含む）への聴き取り調査、及び聞き取り調査を踏まえた中・長期的改善策の提案とフォローアップとし、これらにより、前年度の残業時間と比較すると、今年度は約800時間削減することができた。	S ◎

令和6年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和6年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。						
鳥羽商船自己点検評価 S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし						
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等 ※コロナに係るものは赤字	鳥羽商船 自己点検評価	各係の達成状 況自己評価	
7. 3 情報セキュリティについて						
①	① ・Information Rights Management (IRM)を用いた機密性情報の保護を進め、その利用方法を全教職員に対して周知し、必要に応じて講習会等を行う。 ・学生写真等の教育に必要な情報を安全に共有するシステムを構築し、様々な機密性情報の電子化を進める。 ・学生のBYOD端末活用を進めつつセキュリティアプライアンスを継続活用することで学内LANの安全性を確保する。	情報メディア教育センター	総務	① ・AIPおよびIRMを用いた機密性情報である進路情報などの適切な共有を行い、業務の効率化を図るとともに機密性情報の保護も実現した。 ・また、学生の身上調書を閲覧可能なアプリの開発において、セキュアなデータ管理を行うための技術協力および提案を行い、身上調書閲覧アプリの実現に貢献した。 ・さらに、セキュリティアプライアンスを活用して学生のBYOD端末の利用を促進しており、来年度には全学でのBYOD端末利用を実現する予定である。	S	◎
②	② ・本部等が主催する研修に参加し、セキュアに省力化や効率化を図りつつ、デジタル・トランスフォーメーションに持続的に取り組む。 ・学内でInformation Rights Management (IRM)を用いた機密性の高い情報共有が可能な情報システムを構築し、運用することで情報担当者のスキルアップに繋げる。		総務	② ・学内会議の資料共有において、AIPシステムを用いることにより、機密性を担保した。	S	◎
③	③ ・「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき鳥羽商船高等専門学校サイバーセキュリティ関連規程を更新し、「すぐやる3箇条」を継続して周知徹底する。さらに情報セキュリティ監査の結果に対して迅速かつ継続的に対策を講じる。	情報メディア教育センター	総務	③ ・「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、鳥羽商船高等専門学校のサイバーセキュリティ関連規程を更新し、「すぐやる3箇条」の周知徹底を継続した。 ・また、情報セキュリティ監査の結果に対し、迅速かつ継続的に対策を講じた。	S	◎
④	④ ・全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、情報セキュリティ教育およびその受講状況等をサイバーセキュリティ管理委員会で評価する。 ・Information Rights Management (IRM)の活用に関する周知および運用方法の提案を行い、職責等に応じて必要となる実践的な情報セキュリティ教育を実施する。	情報メディア教育センター	総務	④ ・全教職員の情報セキュリティ意識向上を図るため、情報セキュリティ教育およびその受講状況などをサイバーセキュリティ管理委員会で評価している。(2/19実施予定) ・学生成績情報などの機密性情報をIRMにより保護し、学生課教務系の業務効率化とセキュリティ強化を実現した。	S	◎
⑤	⑤ ・複雑化する情報セキュリティリスクに対応するため、本校の情報セキュリティ対策における管理的業務は、サイバーセキュリティ管理委員会及び情報メディア教育センター運営委員会が責任を持ち、情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ副責任者及び情報セキュリティ推進責任者が主として、今後の情報セキュリティ対策を進める。 ・三重サイバーセキュリティ・アイザック (MieCS-ISAC) に引き続き参画し、三重県警、自治体、企業とのサイバーセキュリティ情報の共有・啓発活動を行い、学内の情報セキュリティ対策に活用する。	情報メディア教育センター	総務	⑤ ・複雑化する情報セキュリティリスクに対応するため、本校の情報セキュリティ対策における管理的業務は、サイバーセキュリティ管理委員会および情報メディア教育センター運営委員会が責任を持ち、情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ副責任者、および情報セキュリティ推進責任者が主導して今後の情報セキュリティ対策を進めている。 ・具体的には、身上調書閲覧アプリの開発においてセキュリティを担保するための技術協力および提案などを行った。 ・また、三重サイバーセキュリティ・アイザック (MieCS-ISAC) に引き続き参画しており、年2回の全体会議およびセキュリティ啓発活動にも参加・協力した。 ・さらに、三重県警、自治体、企業とのサイバーセキュリティ情報の共有および啓発活動を継続して行い、学内の情報セキュリティ対策に活用している。	S	◎
⑥	⑥ ・継続して「すぐやる3箇条」を周知徹底し、インシデント等の発生時には、国立高等専門学校機構CSIRT (KOSEN-CSIRT) への情報共有を迅速に行いつつ情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を継続して行う。	情報メディア教育センター	総務	⑥ ・「すぐやる3箇条」の周知徹底を継続し、インシデント発生時には、国立高等専門学校機構CSIRT (KOSEN-CSIRT) への情報共有を迅速に行い、情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大の防止に向けた啓発を継続して行っている。	S	◎
7. 4 内部統制の充実・強化						
①-1 ～ ②-1	(機構本部のみの計画のため、省略)					
②-2	②-2 ・高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	校長	総務	2-② ・機構本部から「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」が送付され次第、総務係から全教職員へ周知し、セルフチェックを実施した。	A	◎
②-3	②-3 ・事案の発生時において、幹部教職員及び関係教職員が参集し、情報収集及び方策について協議する。そのうえで、機構本部と情報共有を行う。		総務	2-③ ・事案が発生した際は、リスク管理室会議を開催し、情報共有及び方策を協議することとなる。そこでの内容を機構本部と情報共有を行った。	A	◎
③	③ ・機構本部監査室からの監査受検結果に対するフォローアップを速やかに実施する。	校長	総務	③ ・前年度受検した内部監査において指摘を受けたフォローアップについて、各所掌において実施している。	A	◎
③	④ ・公的研究費使用マニュアルを必要に応じて見直しを行う。 ・公的研究費等に関する不正使用の防止策を確実に実施するとともに、教職員に対し、コンプライアンス教育研修を実施し、不適正経理の防止についての周知を行う。	校長	財務・経理	④ ・4月当初に全教職員宛に「公的研究費使用マニュアル」をメールで周知し、公的研究費使用ルールの確認を定期的に意識づけている。 ・新規採用の教職員には都度マニュアルを配付し、公的研究費の使用ルールについて説明している。 ・四半期に一度、全教職員に向けて公的研究費の不正使用防止のための啓発をメールにて行っている。 ・コンプライアンス研修については2～3月にeラーニングにて実施した。	A	◎
⑤	(機構本部のみの計画のため、省略)					